

# 第1章

## 渋川市新水道ビジョンの策定にあたって



佐久発電所サージタンクから望む渋川市街地（北橋地区）

1.1	策定の趣旨	2
1.2	渋川市新水道ビジョンの位置付け	2
1.3	計画期間	3
1.4	計画策定の経過と今後の見込み	3
1.5	国の動向	4

第1章 渋川市新水道ビジョンの策定にあたって

1.1 策定の趣旨

渋川市の水道事業は、平成18年2月の合併により引き継いだ既存の水道事業について適切な水需要の予測、自己水源等の合理的な運用、老朽管の更新、配水形態を改善するための施設整備などを計画的に推進することを目的として、平成21年4月に「渋川市水道ビジョン」を策定しました。

しかし、給水人口の減少が続くなか、水道サービスの充実、運営基盤の強化、安心・快適な給水の確保、老朽施設の更新、震災・濁水等の災害対策など水道事業を取り巻く環境は、大きく変化しています。

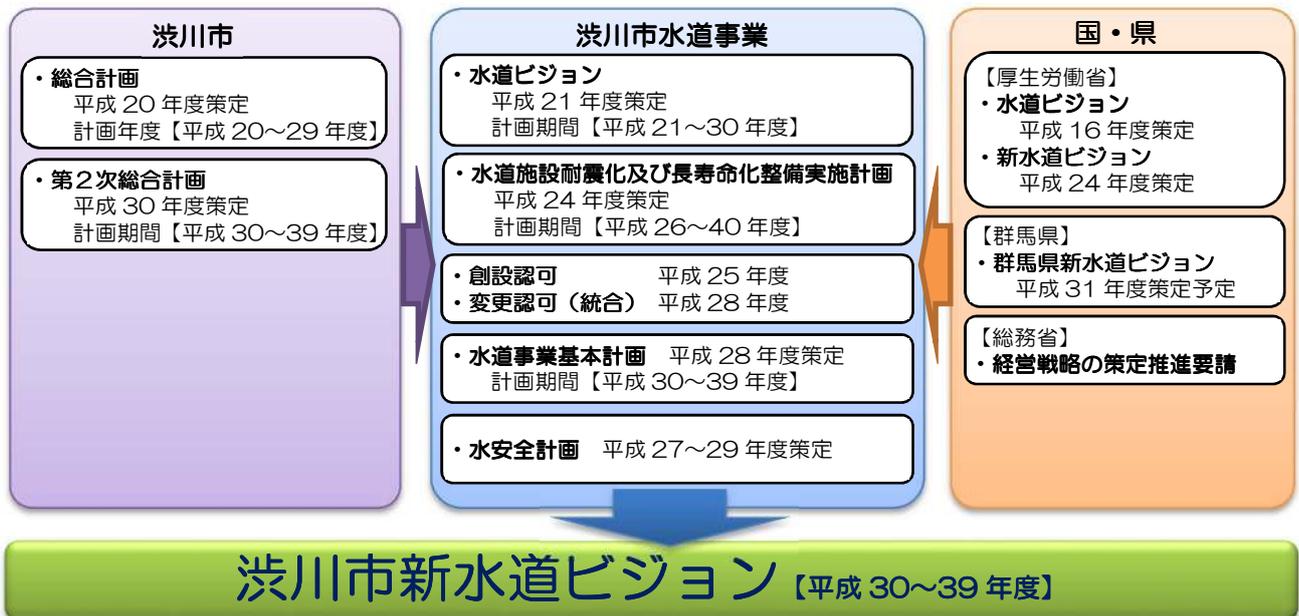
また、厚生労働省は、平成25年3月に、水道事業の置かれた環境を踏まえ、50年100年先を見据えた水道事業の理想像と、これを実現するための具体施策を示した「新水道ビジョン」を策定しています。

このような背景を踏まえ、平成26年3月に渋川市上水道事業の創設認可を取得しました。更に平成29年3月に簡易水道事業の譲受けが完了し、水道事業の統合が図られたことから、現行の「渋川市水道ビジョン」の見直しが必要となりました。

渋川市水道事業の現状分析と評価から課題を抽出して、将来にわたって強靱で安全な水の安定供給を図り、持続可能な水道経営を目指すための理想像と目標の設定を行い、その実現に向けた施策を推進するため、新たに「渋川市新水道ビジョン」を策定します。

1.2 渋川市新水道ビジョンの位置付け

図表 1.1 渋川市新水道ビジョンの位置付け



### 1.3 計画期間

渋川市新水道ビジョンの計画期間は、開始年度を平成30年度とし、目標年度を平成39年度とする10年間の計画期間とします。

なお、平成31年度以降に策定される群馬県水道ビジョンの内容に応じた見直しを行う予定です。

計画期間	平成30～39年度	10年間
------	-----------	------

### 1.4 計画策定の経過と今後の見込み

国及び県の水道ビジョン並びに、本市水道事業及び総合計画の策定経過と、平成30年度以降の各計画策定の今後の見込みは、図表1.2のとおりとなります。

(1) 平成30～31年度

渋川市新水道ビジョンの基本方針に基づき、今後の水道事業の経営方針を明確にして安定的な経営基盤の強化を図るため、アセットマネジメントを含む経営戦略の策定を行います。

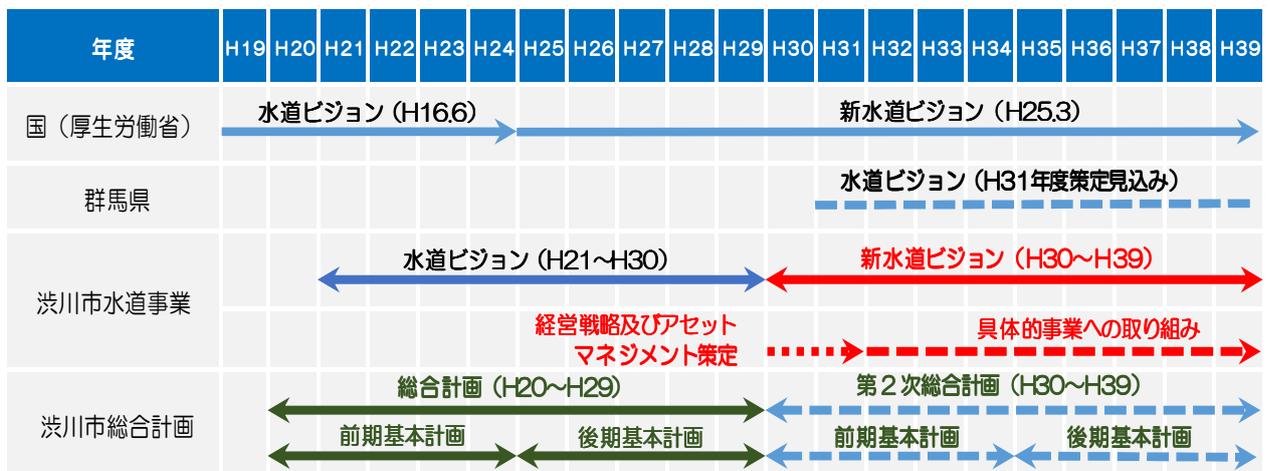
(2) 平成31年度

群馬県水道ビジョンの策定が見込まれます。

(3) 平成32年度

群馬県水道ビジョンの内容を踏まえて、渋川市新水道ビジョンの見直しと経営戦略に基づく具体的な事業に取り組みます。

図表 1.2 計画策定の経過と今後の見込み



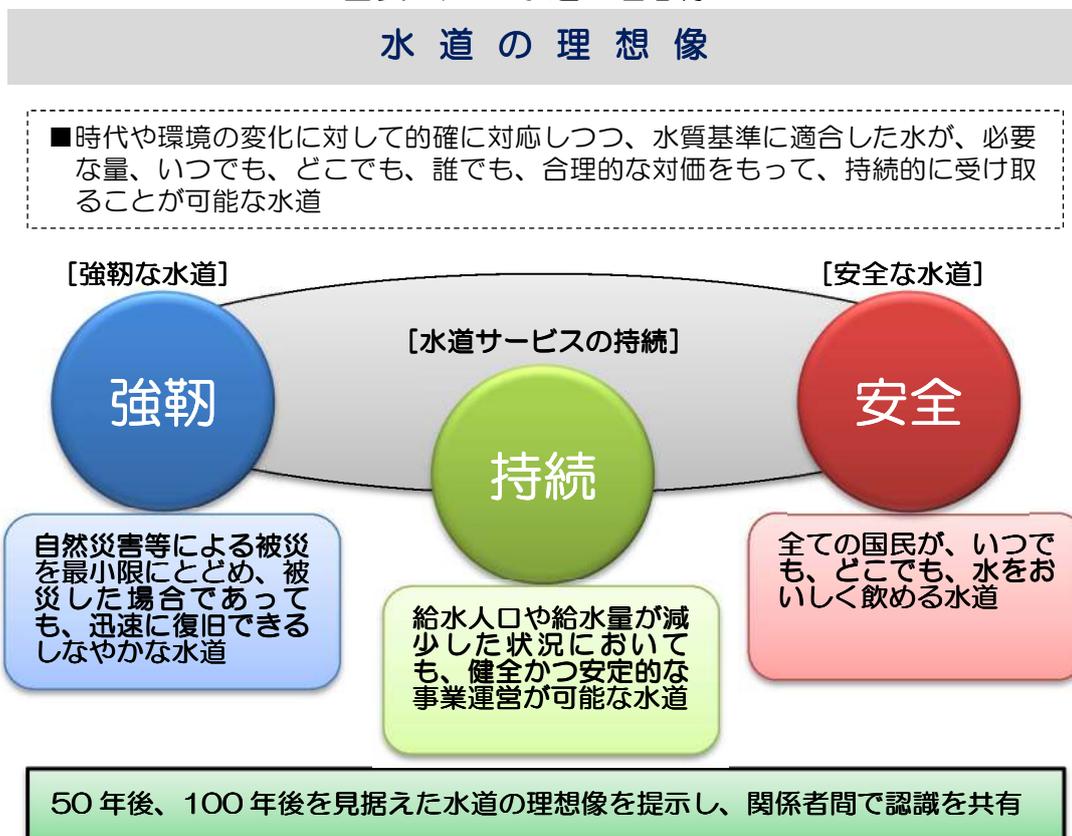
## 1.5 国の動向

厚生労働省は、平成16年3月に策定したこれまでの「水道ビジョン」を全面的に見直し、平成25年3月に「新水道ビジョン」を策定しました。

「新水道ビジョン」では、時代や環境の変化に的確に対応しつつ、水質基準に適合した水が、必要な量、いつでも、どこでも、誰でも、合理的な対価をもって、持続的に受け取ることが可能な水道が理想像とされています。

この中で、水道水の安全確保を「安全」、確実な給水の確保を「強靱」、供給体制の持続性の確保を「持続」と表現し、これら3つの観点から将来を見据えた水道の理想像を具体的に示し、関係者間で認識を共有することとしています。

図表 1.3 水道の理想像



※厚生労働省「新水道ビジョン」より